



講評:梅原 幸雄(東京芸術大学教授、日本美術院評議員)

東紀州観光まちづくり公社主催の、みえ熊野情景スケッチコンテストの審査に参加させていただいて4回目をむかえました。三重県生まれの私も年を重ねるほどに、古里に対する想いは深くなるばかりです。

豊かな自然と、私が生きた60年間、変わらない、昔ながらのたたずまいを大切にしてほしいと願います。毎年のお出品者も安定しつつありますが、より多くの方の参加を期待します。

今年の最優秀賞の稲垣敏子さんの「有久寺」は卓越した素描力で、現地での感動が、素直に伝わる魅力ある作品です。優秀賞の判治隆さんの「大漁を願い」は、現地での生活者としての実感が伝わる存在感のある作品でした。優秀賞の渡部一三さんの「出漁準備」も素直な表現で力強い作品となっています。入選作品の中で、大威あかねさんの「町」、濱地桃歌さんの「あの頃のまま」、三鬼美咲さんの「おやし町」が、私の心に響いてきました。上手な絵はたくさんありますが心に響く絵は少なく、絵を描く上で最も大切な事のように思います。描きたい事を心をこめて描けば、必ず人の心に響くものです。

講評:田島 健次(三重県洋画協会理事・副会長、一水会常任委員)



このスケッチコンテストも今年で4回目。続けることで応募数も定着してきたように見えますが、それだけにやや常連化の顔ぶれがめだってきました。それとは別にスケッチが不得意と言いつつも、ひたむきに描き込んできた高校生の小品からは新鮮な生動が伝わってきます。審査する側のポイントとしては、所謂観光スポット的なモチーフを上手く描いた作品よりは、ともすれば見すごしてしまいそうな絵にもならないアングルを“アート人”という自覚の心眼で捉えている作品に惹かれます。そのような意味から今回の最優秀賞には稲垣さんの「有久寺」、優秀賞には判治さんの「大漁を願い」、渡部さんの「出漁準備」が選ばれました。

今回新設された熊野古道賞には、和田さんの「地蔵尊」がふさわしいという主催者側の声も加味されました。入選された皆さんの作品はどれも質の高い内容で、本企画の将来が楽しみです。

事務局から

第4回目となる今回は、前回の58点を上回る75点の応募をいただき、事務局といたしましても大変嬉しく感じております。ご応募いただきました皆様、誠にありがとうございました。

今回の審査は、1月26日(水)に、名古屋市内に会場をお借りし、審査員の梅原先生、田島先生にお越しいただき、熱心に時間をかけて審査を行っていただきました。年々レベルアップしているとの講評と同時に、大変素晴らしい企画なのでもっと多くの方に知っていただき、更に盛り上げていきたいと思います。次回は新しい試みとして、審査員の先生方や東京芸術大学の院生さんにご協力いただき、絵画の指導もしていただけるような、現地集合型のスケッチツアーを企画したいと考えております。今後ともみなさまからのご応募をお願いいたしますとともに、より広いエリア、年齢層の方に熊野の魅力とこのコンテストをPRしていきたいと考えております。最後になりましたが、出展者のみなさまをはじめ審査員の先生方には大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

「みえ熊野の情景 スケッチコンテスト」事務局 東紀州観光まちづくり公社

■紀北事務所

三重県尾鷲市坂場西町 1-1 (三重県尾鷲庁舎内)
TEL.0597-23-3784 FAX.0597-23-378

■紀南事務所

三重県熊野市井戸町 371 (三重県熊野庁舎内)
TEL.0597-89-6172 FAX.0597-89-6184

ホームページ：<http://higashikishu.org/>

みえ熊野の情景 スケッチコンテスト

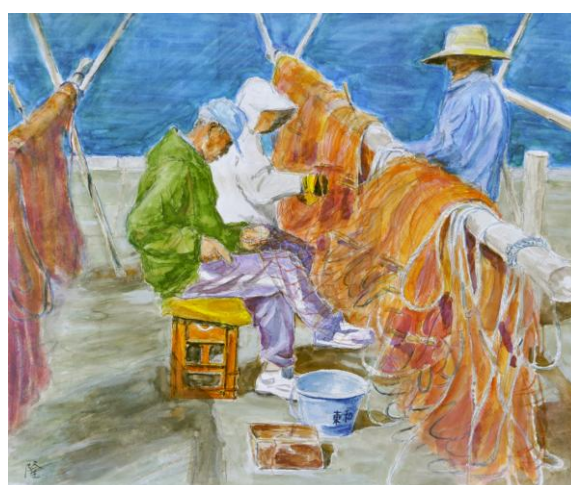
第4回 入賞作品集



最優秀賞 「有久寺」(紀北町紀伊長島区島原) 鈴鹿市 稲垣 敏子
“有久寺の水神社。昼間でも、うす暗い谷に水を汲む祠がありました。”



優秀賞 「出漁準備」(熊野市二木島漁港)
鈴鹿市 渡部 一三
“出漁に備え漁師仲間が互いに手伝い合っている様子が気に入ったので作品にしました。”



優秀賞 「大漁を願い」(尾鷲市大曾根浦)
愛知県吉良町 判治 隆
“いきなり飛び込んできた朱色の漁網。ふたたびこの場所での出港前の風景をスケッチ。”

※2010年10月1日～2011年1月1日ご応募の入賞作品集。

各賞・題名・スケッチ場所・住所・氏名順に記載。掲載順序は各賞の順位には関係なしです。敬称略。